

幸区区民会議からの提言に対する取組

1 地域防災活動の推進について ～避難所の運営訓練から広げよう、助け合う地域のちから～

避難所運営を行い、地域の関係団体が役割を分担して、より実践的に取組みます。

避難時に援護の必要な人への対応策を検討していきます。

(平成19年8月28日現在)

	提 言	提言に対する区取組の方向性	提言に対する取組状況
提言1	区内に22箇所ある避難所で避難所運営会議を立ち上げ、避難所運営訓練を実施する。	<p>避難所運営会議が普段から自主的に運営訓練を実施できるよう支援を行います。また、防災ネットワーク連絡会議が継続的に開催されるよう支援を行います。</p> <p>地域の協力を得てモデルとなる避難所を設置して、避難所運営上の課題の整理などを行います。</p> <p>「防災フェア」やパンフレットの作成・配布などの防災啓発事業を通じて、地域防災力の必要性をPRします。</p>	<p>モデルとなる避難所の設置に向けて、いくつかの町内会・自治会と調整を行っています。</p> <p>7月に南加瀬中学校・西御幸小学校・下平間小学校の3つの避難所で避難所運営会議を開催しました。平成19年度中に7つの避難所で避難所運営会議を開催する予定です。</p> <p>防災啓発事業である「防災フェア」の平成19年度実施に向けた準備を進めています。</p>   <p>避難所運営会議（南加瀬中） 避難所運営会議（西御幸小）</p>
提言2	避難所運営訓練に、民生委員・児童委員協議会、社会福祉協議会等の参加を図り、要援護者の安否確認等支援体制づくりを進める。また、自主防災組織に民生委員・児童委員協議会、社会福祉協議会等の参加を図る。	<p>避難所運営訓練の実施時に、高齢者や障害者など地域の要援護者情報を把握している民生委員・児童委員協議会、社会福祉協議会のメンバーに参加してもらえよう調整を図ります。</p> <p>要援護者への支援につながっていくように、民生委員・児童委員や社会福祉協議会が避難所運営会議に参加して、情報交換が行なわれるよう調整を図ります。</p> <p>川崎市の要援護者支援の仕組み「災害時要援護者支援制度」(策定中)に基づいた取組を図っていきます。</p>	<p>総務局危機管理室や健康福祉局などと連携をしながら、全市的な要援護者支援の体制づくりを検討しています。12月の運用開始を目指しています。</p> <p>区における要援護者避難支援体制づくりなどに向けて、6月25日の幸区自主防災連絡協議会定期総会において民生委員児童委員協議会の自主防災連絡協議会への加入が決定しました。</p> <p>7月25日、8月2日、8月9日、町内会・自治会に要援護者避難支援制度の説明と協力要請を行いました。</p> <p>9月2日、区本部訓練にあわせて、区社会福祉協議会等と協働した「災害ボランティアセンター」の立上げ訓練実施を予定しています。</p>
提言3	個別避難所運営マニュアル検討などのためのモデルとなる避難所を設置する。	<p>地域の協力を得てモデルとなる避難所を設置して、運営マニュアルの作成を行い、他の避難所での運営マニュアルづくりに役立つよう取組みます。</p>	<p>8月、幸区版の避難所運営マニュアル(素案)を作成しました。今後、各避難所運営会議が「避難所運営マニュアル」づくりを検討する際のたたき台として活用してもらう予定です。</p>  <p>避難所運営マニュアル（素案）</p>
提言4	医療救護マニュアルに基づく地域医療救護の取組と地域との関係づくりを進める。	<p>災害時における区民への医療救護活動を円滑に行うために、医療救護所の取組や食品衛生対策など、関係団体と連携した取組を進めます。</p>	<p>災害時の避難所等で食品衛生、感染症等の発生予防を図る啓発活動を検討しています。</p> <p>川崎市医師会の「災害時医療救護活動マニュアル」の見直しが見直しが予定されているため、その改訂後に医療関係団体等と連携した取組を検討していきます。</p>



幸区区民会議からの提言に対する取組

2 魅力づくりと市民活動の推進 ~知ってもらおう!地域の生活を豊かにする活動 一つひとつがつながることで 広がる魅力~

各団体が横につながる取組を進めよう、各団体の接点をつくっていこう

地域のさまざまな団体がつながるように、取組の活性化を図るため、情報提供をしていこう

(平成19年8月28日現在)

	提 言	提言に対する区の取組の方向性	提言に対する取組状況
提言1	各団体が横につながる取組を進める 【取組モデルその 1】 日吉地区の地域資源(加瀬山、夢見ヶ崎動物公園、矢上川等)を活かしたネットワークづくり	地域資源を活用した、各団体のつながりづくりを進めるため、日吉地区をモデル地区として、日吉地区内に点在する多様な地域資源を核として、地域資源を守り、育み、活かす活動をする団体間のネットワークをつくることを応援します。	日吉地区を中心とした自然・環境・歴史・文化等の分野で活動している地域の団体のネットワークづくりに取り組んでいます。 各団体の連携で、7月31日に第1回「日吉の「わっ」日吉のタカラモノってなんだ?」、8月26日に第2回「日吉の「わっ」みつけた!日吉のタカラモノ」を開催しました。  7月31日に開催された第1回  第1回と第2回の告知チラシ
提言2	各団体が横につながる取組を進める 【取組モデルその 2】 「夢こんさあと」の出張など、他の団体との協力、協賛することで、広がる魅力づくり	市民の実行委員会が中心になって定期開催している「夢こんさあと」と、他の団体との協力を進め、横のつながりづくりを応援します。その実施モデルとして、夢見ヶ崎動物公園を会場に野外コンサートの実施に取り組めます。	日吉地区を中心に様々な分野で活動している地域の団体の協力で、7月27日、夢見ヶ崎動物公園で「夢こんさあと」を初の野外コンサートとして開催しました。約300名が参加し、打楽器の演奏後に、各団体の活動紹介のスライド上映を行いました。  夢こんさあと  協力団体の展示コーナー
提言3	地域のさまざまな団体のつながりや取組の活性化を図るために情報の提供を行う 【取組モデルその 3】 活動拠点の活性化、市民の活動に関する情報提供の促進	住民参加型・双方向性サイトのモデル的な活用の取組として、「さいわいコミュニティサイト」を多くの人に知ってもらい、サイトの活用を促進するための支援を行います。 幸市民協働プラザ(愛称:幸タウンカフェ)が、各種団体の情報交換等の場として活用される支援を行います。	「さいわいコミュニティサイト」の基本的な運営支援の継続と、サイトへの行政情報の提供を適宜行っています。 サイトの利用増加に対応するため、サーバー容量の拡充を行うとともに、安全性向上を図るため、SSLを導入しました。 SSLとは、情報を暗号化して送受信する通信方法です。 サイトの活用を促進するため、幸区ホームページへのバナー設定を検討しています。 市民協働プラザを利用する団体の増加を図るため、施設利用を促進する広報を行い、活性化などを支援しています。 11月17日に、市民・企業・行政の協働をテーマとしたフォーラムの開催を検討しています。